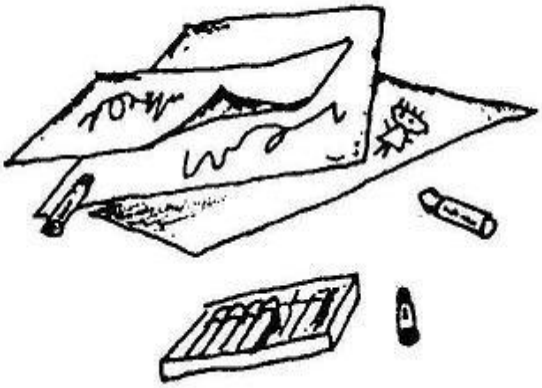
このほん よんで！

第２版　追録版

調布市立図書館

このほんよんで！

第２版　追録版



表紙：岩波里枝

刊行にあたって

私たちは、図書館の日々の仕事の中でブックリストの必要性を感じ、昭和６０年に「このほんよんで！」の初版を刊行しました。それから３６年の月日が流れ、子どもを取り巻く環境や子どもの本の出版状況は変わりました。しかし幸いなことに「このほんよんで！」に収録した作品は今でも調布の子どもたちに喜ばれ、調布市立図書館の蔵書の核として、何度も買い替えを重ねて子ども室に並んでいます。また、このリストに紹介した絵本を読んでもらって育った世代が親になり、お子さんに読み聞かせをしている姿を目にすることができるようになりました。

この間には、リストに収録した作品の中で、絶版になったり、品切れになったりして購入できなくなってしまった絵本が数多くありました。その一方で良い絵本もたくさん出版されましたので、是非、それらを「このほんよんで！」に加えたいと考えてきました。また、このリストは調布市内だけではなく、全国の皆様にもお求めいただいてきましたが、その方々からも「新しい本を加えて欲しい」とのご意見が寄せられていました。そこで平成１８年に追録版を、平成２２年には『このほんよんで！』と追録版を合わせた第２版を刊行しました。

今回の『このほんよんで！第２版　追録版』は、その後出版された作品で、図書館のおはなし会等で取り上げたものの中から、お薦めしたい作品を選び掲載したものです。また、近年はブックスタート※の広まりなどにより、０歳児への読み聞かせも盛んになっています。赤ちゃん向け絵本の出版も増え、お薦めしたい本が多くありますので、特に０・１・２歳向けの本を多く追加しました。

私たちは、ひとりでも多くのお子さんが乳幼児期に忘れられない絵本に出会って欲しいと願っています。どうか、身近にいるお子さんたちに、絵本を声に出して読んであげてください。絵本を通して素晴らしい世界が限りなく広がっていくことでしょう。

※ブックスタート
絵本を介して乳幼児と保護者がゆっくり向き合い、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる事業。１９９２年イギリスで始まり、日本では２０００年の子ども読書年を契機に、子育て支援・読書推進事業として広まった。

凡　例

１．　リストに収録した作品は４６点（内、紹介文をつけたものは３６点）で、それらを

１）　０・１・２歳向き

２）　３・４歳向き

３）　５・６歳向き

４）　参 考 資 料

と４つのグループに分けました。

２．　グループごとに、書名のアイウエオ順に配列しました。

３．　収録作品は２０２０年４月までに出版されたものです。

４．　各作品の書誌的な事項は、書名　著者名　画家名　翻訳者名　出版社　定価の順に記載しました。なお、定価は２０２１年５月現在のもので、手に入らないものについては「品切」と書いてあります。

目　次

刊行にあたって
０・１・２歳向き…… 7
３・４歳向き…… 13
５・６歳向き…… 18
読み物…… 21
参　考　資　料…… 22

０・１・２歳向き

０・１・２歳といっても、その間には大きな開きがあります。０・１歳の頃は、赤ちゃんを外に連れ出し、自然に触れさせ、お父さんやお母さんはわらべうたや子守歌を歌ってあげる、それだけで十分だと思います。けれども、もしお子さんが絵本に興味を示すようでしたら、こんな本を読んであげてはいかがでしょうか。２歳になると、子どもたちはストーリー性のあるものを聞けるようになりますので、ここに挙げた本を親子で大いに楽しんでください。

『おじょらぽん』　はせがわせつこ文　さいとうとしゆき絵

福音館書店　800 円

ひよこちゃん、こやぎさん、こうしくん、こがもちゃん、こうまくん、こぶたちゃん、こいぬくん。動物の子どもたちは皆、「おやすみなさい」を言ってくれたお母さんに寄り添って目を閉じます。最後にはゆーくんも、子ネコと一緒に眠ります。

寄り添う親子の姿が柔らかな色彩で描かれ、眠りの前の穏やかな様子が伝わってきます。「おじょらぽん　おじょらぽん　ねんねんねん」と繰り返されるおやすみなさいの言葉に、子どもも静かに眠りにつくでしょう。おやすみ前の１冊にぴったりの絵本です。

『こちょこちょ』　福知伸夫さく

福音館書店　800 円

「ねこさん　こちょこちょ」「かえるさん　こちょこちょ」「にわとりさん　こちょこちょ」。

澄ました表情のネコやカエルが、くすぐられて体全体で笑い崩れてしまう様子が、はっきりとした線の木版画で画面いっぱいに描かれています。

「こちょこちょ」の繰り返しと迫力のある絵は、シンプルでありながら、こちょこちょの楽しさや、生き物たちのくすぐったそうな様子が幼い子によく伝わります。絵本を読みながら、お子さんと一緒にくすぐり遊びをすると喜ばれます。

０・１・２歳向き

『サンドイッチサンドイッチ』　小西英子さく

福音館書店　900 円

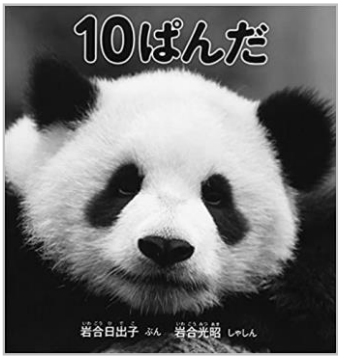
「サンドイッチ　サンドイッチ　さあ　つくろう」

パンにたっぷりバターを塗って、レタス、トマト、チーズ、ハム……。たくさん具をのせたら最後にパンをもう一枚乗せて、おいしそうなサンドイッチの出来上がり。

鮮やかな色合いで描かれたパンや具材はどれもおいしそうで、目の前で本当にサンドイッチが作られていくかのような楽しさがあります。テンポ良く進む文章は、絵と共にサンドイッチの完成を盛り上げています。他に、お弁当が完成していく様子を描いた**『おべんとう』**、カレーライスが出来るまでを描いた**『カレーライス』**があります。

『１０ぱんだ』　岩合日出子ぶん　岩合光昭しゃしん

福音館書店　900 円



「らくらく　きのぼり　１ぱんだ」「のはらで　のんびり　２ぱんだ」「みみを　すます　３ぱんだ」……。リズミカルな文章と、動物写真家ならではの生き生きとしたパンダの写真が、子どもの心を捉えます。１ページごとに増えていくパンダの数を、一緒に数えながら読んでみてください。裏表紙のパンダも、ちゃんと１０匹いますよ。

巻末に「ぱんだについてしりたいこと１０」として、パンダの住んでいる所や大きさ、食べ物などについての豆知識も掲載されています。同じ写真家の絵本で**『１０ねこ』**もあります。

『でんしゃはうたう』　三宮麻由子文　みねおみつ絵

福音館書店　900 円

お母さんと一緒に電車の一両目に乗った男の子。運転席のすぐ後ろに立って、車窓の景色を眺めながら電車の音に耳を澄ます。出発の時は「ぷしっ　ごろろー　ぽっ」、走り出すと「とっ　どだっとおーん　どだっととーん　どだっととーん」。商店が並ぶ町を過ぎ、特急電車と擦れ違い、川に掛かる鉄橋を渡り、やがて大きな駅に到着するまでを音で描いています。

ユニークな擬音語ばかりなので、一見読むのが難しそうですが、電車が動くリズムを想像しながら声に出して読んでみると、楽しさが広がります。

『ととけっこうよがあけた』　こばやしえみこ案　ましませつこ絵

こぐま社　900 円

朝やお昼寝など、赤ちゃんの目覚めの時に歌ってあげたいわらべうたの絵本です。ニワトリが動物の子どもたちを起こして歩き、最後は皆でそろっておひさまにあいさつをします。暖色を中心とした明るい色彩と動物たちの豊かな表情から、楽しく目覚める様子が伝わってきます。お子さんの名前を入れて歌ってあげると、より楽しめます。

わらべうたえほんのシリーズに、**『せんべせんべやけた』『どんどんばしわたれ』**があります。いずれも巻末に楽譜がついています。

『どんどこどん』　和歌山静子作

福音館書店　900 円

「つちのなかで　どんどこ　どんどこ」という言葉とともに、大きく広がる葉っぱと茎。一体、何の野菜でしょう？

ページをめくると、「どん」という音が聞こえてきそうなほどたくましく育った根菜の姿が現れます。繰り返しの言葉はリズムよく耳に響き、野菜の持つ力強さが画面いっぱいに描かれています。赤ちゃんがおしゃべり出来るようになったら、野菜の当てっこに使うのも楽しみ方の一つです。地面の下の野菜から元気が伝わる、楽しい絵本です。

『ぱんだいすき』　征矢清ぶん　ふくしまあきええ

福音館書店　800 円

「こんにちは　ぱんやさん。ぱんが　いっぱい。ああいい　におい。」

パン屋さんに入ると、様々な種類のおいしそうなパンがたくさん並んでいます。食パンやクロワッサン、フランスパン、サクランボがのったパン、メロンパン……。

温かみのある優しいタッチの絵からは、出来立てのパンのふっくらとした柔らかさを感じることが出来ます。語り掛けるような言葉によって、子どもたちはどのパンを買おうかと一緒に選んでいる気分になるでしょう。食べたことのあるパンや好きなパンを探してみても楽しめます。

０・１・２歳向き

『　ぴ　ょ　ー　ん　』

まつおかたつひで作・絵

ポプラ社　780 円

「かえるが…ぴょーん」、「こねこが…ぴょーん」。続いて、イヌ、バッタ、ウサギなどが次々に登場し、ぴょーんと跳びはねます。

子どもの手にも持ちやすい小さな絵本で、縦開きの画面と白地の背景が生き物の動きを際立たせています。はじめはじっとしゃがんでいる生き物が、次の場面ではダイナミックにジャンプし、ページをめくる「間」が子どもたちの期待を一層高めます。読んでいると、思わず一緒にぴょーんと跳びはねたくなる楽しい絵本です。

『ぶーぶーぶー』

こかぜさちぶん　わきさかかつじえ

福音館書店　800 円

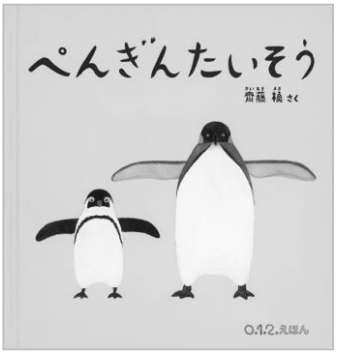
赤、青、黄、緑の自動車が、「ぶーぶーぶー」「ぷーぷーぷー」「ぱっぱっぱっ」「ぷっぷっぷっ」と音を鳴らしながら並んで走っていきます。そこへ、大きなトラックがやって来ました。４台の自動車は驚きますが、大きなトラックが「みんな　のるかい？」と声を掛けてくれたので、みんなで荷台に載って出発します。

発音しやすい音が多く、子どもたちも一緒に声を出して楽しめます。シンプルで鮮やかな自動車の絵、耳に心地良いリズミカルな文章、ごく単純で分かりやすいストーリーが調和して、子どもたちの目と耳と心を引きつけます。

『ぺんぎんたいそう』

斎藤槙さく

福音館書店　800 円



「ぺんぎんたいそう　はじめるよ　いきをすって～　はいて～」「うでをふって～　ぱたぱた　ぱたぱた」

二羽のペンギンのユーモラスな動きとリズミカルな文章が楽しい絵本です。子どもたちはペンギンの動きをまねて、首を伸ばしたりジャンプしたりする等、元気に体を動かします。

鮮やかな黄色の背景に、白黒のペンギンがくっきり浮かび上がり、子どもたちの目を引きつけます。遠目がきくので、家庭での読み聞かせはもちろん、集団への読み聞かせにも向きます。

『ぽぽんぴぽんぽん』　松竹いね子文　ささめやゆき絵

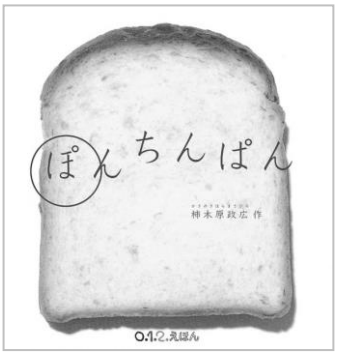
福音館書店　800 円

「ぽぽんぴ　ぽんぽん　たろうくんの　おへそは　どーこ」という呼びかけに、たろうくんが「ここ」とおへそを指して答えます。続いて、サル、クマ、カバが登場し、みんなでおへそを出して並んだら、最後はお風呂に入ります。

おへそは、自分で見ることが出来るので、幼い子どもにも身近な存在です。絵本をきっかけに、お互いのおへそを確認し合ったり、登場する動物のおへその位置を当てっこしたり、触れ合いや会話が自然と生まれます。短くリズミカルな繰り返しと、愛嬌のある動物の挿絵が親しみやすい絵本です。

『ぽんちんぱん』　柿木原政広作

福音館書店　800 円



「ぱんぱん　しょくぱん　ぽんちんぱん　ちぎちぎ　ぱっぱで　ぽんちんぱん」

ページをめくる度、おいしそうなパンが登場し、表面や中身をちぎられたパンは、笑った顔やおどけたような顔に見えます。子どもにとってパンは身近な食べ物なので、次にどんなパンが出てくるのか、どんな顔をしているのかとワクワクしながら、読むことができる写真絵本です。

リズミカルに繰り返される言葉は、弾むような響きが耳に心地よく残ります。読み手もテンポよく声に出すことが出来、目でも耳でも楽しめる１冊です。

『ロボットボット』　こかぜさちぶん　わきさかかつじえ

福音館書店　品切

青、赤、黄色のおもちゃのロボット３体が登場し、「ギー　ガタン」「ガシン　ガシン」「ガローン」と進んでいきます。そこへ突然サッカーボールが飛んできて、ロボットたちは「おっとっと」。驚いたものの、最後はみんなで「ロボット　ボット　おっとっと」と並んで歩いていきます。

ロボット特有の機械音が心地よくリズミカルです。白を背景に、ダンボールを使って鮮やかな色でコラージュされたロボットの絵は、幼い子の目にもくっきりと映ります。音や動きを思わずまねたくなる絵本です。

０・１・２歳向き

『わにわにのおふろ』　小風さち文　山口マオ絵

福音館書店　900 円

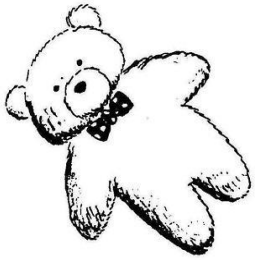
わにわには、お風呂が大好きなワニです。

迫力のある見た目とは裏腹に、おもちゃで遊んだり、あぶくを飛ばしたり、シャワーをマイクにして歌ったり、心行くまでお風呂を楽しみます。お風呂上がりに、満足そうにオレンジジュースを飲む表情は、人間の子どもにそっくりです。

多色刷りの版画で力強く描かれたワニが子どものように振舞う様子に、子どもたちは引きつけられます。「ずるずり　ずる　ずり」「ぐにっ　ぐにっ　ぐなっ　ぐなっ」などの擬音も愉快です。シリーズもあります。

【そのほかにおすすめしたい作品】

『おいしいおと』　三宮麻由子ぶん　ふくしまあきええ



３・４歳向き

この時期の子どもたちは、身も心も驚くほど大きく成長します。日常の生活体験や遊びの幅も広がり、言葉の力も次第に身についていきます。それまでの親子一体の関係から、友達を求めて外へ行き、自分の世界を作り始めるのです。さて、いよいよ物語絵本を十分に楽しめる時が来たのです。好奇心がいっぱいで、お話に出てきたことを、すぐに実際の生活や遊びに取り入れて追体験するといったことも頻繁に起こってきます。また、音としての言葉により敏感で、繰り返しや擬音に反応し、体中で喜びを表現します。空想と現実が同居している素晴らしいこの時期に、想像力を伸ばし、楽しみと発見のある絵本をたくさん読んであげてください。

『おつきさまこっちむいて』　片山令子ぶん　片山健え

福音館書店　900 円

「おつきさま　こっちむいて」ぼくは空を見上げて、様々な姿のお月さまに話しかけます。細いお月さま、昼間に出ているお月さま、自分を追いかけてくるように感じられるお月さま……。

満ち欠けするだけでなく、天気や時間、場所によって、見え方が変わる月の面白さが伝わってきます。ぼくがお月さまに語りかける優しい文章と、温かな絵はよく合っており、幼い子どもが月に感じる不思議な雰囲気がよく表されています。おやすみ前の読み聞かせにもぴったりな１冊です。

『からすのパンやさん』　かこさとし作・絵

偕成社　1000 円

いずみがもりは、カラスのまち。そこにはカラスのパン屋さんがありました。パン屋さんは子どもたちに頼まれて、変わった形の楽しいおいしいパンをたくさん作りました。だるまパン、きょうりゅうパン、じどうしゃパン、はぶらしパン……。

個性豊かに描かれたカラスや、見開きいっぱいに描かれたおいしそうなパンの絵を見ながら、親子で楽しめる絵本です。このユーモアあふれ、どこか懐かしさが感じられるお話は、長く読み継がれています。他にもシリーズがあります。

『しきぶとんさんかけぶとんさんまくらさん』　高野文子作・絵

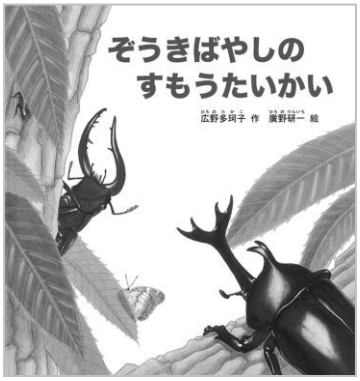
福音館書店　900 円

「しきぶとんさん　かけぶとんさん　まくらさん　あさまで　よろしくおねがいします　あれこれ　いろいろ　たのみます」男の子は夜中におしっこが出たり、寝冷えしたり、怖い夢を見たりしないよう、布団や枕にお願いします。

子どもが眠る前の心配事を、寝具が「まかせろ　まかせろ　おれにまかせろ」と引き受け、安心させてくれる絵本です。布団と男の子を強調した画面のデザインと、繰り返しの独特な台詞が印象に残ります。眠りに就く前の子どもを温かく包み込み、不安な気持ちを吹き飛ばしてくれる１冊です。

『ぞうきばやしのすもうたいかい』　広野多珂子作　廣野研一絵

福音館書店　900 円



雑木林の切り株の上で、虫たちの相撲大会が始まりました。カナブンとタマムシ、ダンゴムシとカマキリなど、種類も大きさも違う虫たちは、どちらが強いでしょう？

「みあって　みあって」「のこった　のこった」の掛け声で、それぞれの特徴を活かした勝負が繰り広げられます。

写実的でダイナミックな虫たちの絵には、切り株のすぐそばで相撲を見ているような迫力があります。ダンゴムシがカマキリの前足にしがみついて勝つ描写など、現実で起こる事象が再現されていて、単純な大きさのみでは勝負がつかないところも子どもを引きつけます。

『ねえどっちがすき？』　安江リエぶん　降矢奈々え

福音館書店　900 円

「ねえ　どっちがすき？　ぴっかりめだまやきと　ほっこりたまごやき」男の子とキツネの前に、色々なおいしい物や楽しい事が二つ登場し、「ねえ　どっちがすき？」の問い掛けが繰り返されます。最後には、ウィンナとハンバーグをお互いに食べさせあって「どっちもだいすき！」で終わります。

擬音を生かした文章が心地よく、力強い線で描かれる、表情豊かでのびやかな絵が魅力です。登場する物は、子どもが好きな物ばかりで、わくわくしながらどちらが良いかと考えて答えてくれます。

『はっぱのおうち』　征矢清さく　林明子え

福音館書店　900 円

「さちが　にわで　あそんでいると、　ほっぺたに　あめが　ぽつんと　おちてきました。」葉っぱのおうちに雨宿りに行くと、そこにはカマキリがいました。さらにモンシロチョウ、コガネムシ、テントウムシ、アリもやって来ます。「みーんな　おなじうちの　ひとみたい」。やがて雨が上がり明るくなると、みんなはお母さんが待つ本当のおうちへ帰ります。

雨が止むまでのさちと虫たちのひとときを優しい語り口で描いた絵本です。絵は温かみのあるタッチで、さちの表情がとても豊かです。

『ぼうしころころ』　長谷川摂子文　田宮俊和構成

福音館書店　1300 円

白の背景に、シンプルで色鮮やかな積み木が物語を作る、写真絵本です。仲良し四人組のあかくん、あおちゃん、きいくん、みどちゃんが遊んでいると、帽子が風に飛ばされてしまいました。追いかけていった四人は、高い時計台の上に載っている帽子を見つけて、みんなで肩車をしますが届きません。次にみんなで力を合わせて時計台を押すと……。

シンプルだからこそ、子どもは積み木が作る世界を自由に想像でき、お話に引きつけられます。同じシリーズの**『あかくんとまっかちゃん』**も一緒にどうぞ。

『ほね、ほね、きょうりゅうのほね』　バイロン・バートンさく

かけがわやすこやく　ポプラ社　1400 円

つるはしやスコップを持った人たちが、「ほねは　ないか、ほねは　ないか。」と恐竜の骨を探して歩きます。骨を見つけ、地面から掘り出し、しっかり梱包。箱に入ったたくさんの骨が、何台ものトラックで博物館に運び込まれ、組み立てられていきます。出来上がったのは、ティラノサウルス。

はっきりとした色使いのシンプルな絵で、力強く恐竜の発掘と骨の組み立てを描いています。リズミカルで簡潔な文章が心地よく、恐竜が好きな子もそうでない子も引き込まれます。

『まほうのコップ』　藤田千枝原案　川島敏生写真　長谷川摂子文

福音館書店　900 円

「たねもしかけもありません　ただのコップに　ただのみず　これがまほうのコップです」

水を入れたコップの後ろに色々な物を置くと、魔法のようにいつもと違った姿で見えてきます。身近な物ですぐに出来る科学遊びを紹介した写真絵本です。

鮮明でインパクトがある写真はもちろん、リズミカルな擬音やユニークな言葉も魅力的です。女の子がコップを覗いている最後のページを見ると、子どもはくすくす笑い出します。読んだ後は、「まほうのコップ」で遊んでみたくなることでしょう。ぜひお試しください。

『みんなであそぶわらべうた』　近藤信子編・遊び方指導　梶山俊夫絵

福音館書店　1300 円

「ずーくぼんじょ　ずくぼんじょ　ずっきん　かぶってでてこらさい」「こども　かぜのこ　じじばば　ひのこ」

日本に伝わる昔ながらのわらべうたは、初めて耳にする歌でもどこか懐かしく、思わず口ずさんでしまう魅力があります。家族や友達と一緒に遊べるものなら、より一層の喜びを子どもに与えてくれるはずです。この絵本では、小さい子も大きい子も一緒になって楽しめるわらべうた１１種を、遊び方と共に紹介しています。歌の意味と季節が表された素朴で親しみやすい絵も魅力的です。お子さんとの楽しい時間にぜひご活用ください。

『もちっこやいて』　やぎゅうげんいちろうさく

福音館書店　1300 円

きたかぜくんやあおおにくんたちが、ばっちゃんの家にお餅を食べにやってきました。「もちっこ　やいて　とっくらきゃして　やいて」と歌いながら、お餅が焼けるのをまっていると、あんこちゃんやしょうゆのおばさん、やきのりのおっちゃんも一緒に歌いだしました。

「もちっこ　やいて」は手の平をお餅に見立てて遊ぶわらべうたです。子どもたちは歌いながらおもちを焼いて、しょうゆや砂糖など、自分の好きな味付けで、おいしそうにお餅を頬張ります。同著者の**「おなべふこどもしんりょうじょ」**もわらべうたが元になった絵本です。

『もりのてぶくろ』

八百板洋子ぶん　ナターリヤ・チャルーシナえ

福音館書店　900 円

静かな森に黄色い葉っぱが一枚落ちていました。ネズミがそっと手を当ててみます。「ぼくのてより　ずっとおおきいや」ウサギ、キツネ、クマも手を当ててみましたが、大きさが合いません。そこへ人間のお母さんと男の子が通りかかりました。「わあ、いいもの　みつけた。てぶくろみたい」男の子が手を当ててみるとぴったりでした。

穏やかな雰囲気の物語で、男の子がお母さんといっしょに葉っぱを持ち帰る結末に安心感があります。草木やキノコ、動植物を繊細に描いた美しい絵から、森の情景が豊かに伝わってきます。実りの秋に読みたい１冊です。

５・６歳向き

子どもは５・６歳になると個性がはっきりし、自分の好み、得意の分野などが明確になってきます。手先の器用な子どもはあやとりや折り紙などがとても上手です。工作や虫などに夢中になるのもこの頃から。好奇心旺盛な活動的な子どもは以前より行動力がつき、冒険や困難なことに挑戦します。また歯の抜け替わりを経験し体のことにも興味を示します。相変わらず耳から響いてくる言葉や音の感覚は鋭く、言葉遊びや詩は大好きです。前よりも込み入ったお話を理解できますが、骨太な昔話などから読んであげてください。また、この時期に文字を覚える子どもはたくさんいますが、本を読むこととは別のことです。決して「自分で読みなさい」と本だけ押しつけたりなさいませんように……。

『かえるをのんだととさん』　日野十成再話　斎藤隆夫絵

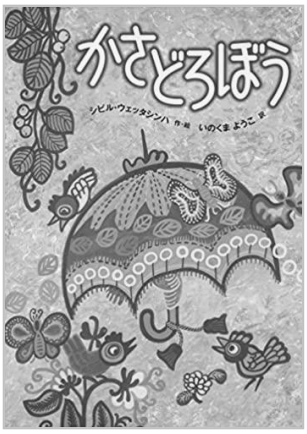
福音館書店　900円

昔あるところに、仲の良いととさんとかかさんが住んでいました。ある日、おなかが痛くなったととさんは、腹痛の治し方を聞きにお寺の和尚さんを訪ねます。すると和尚さんは、腹の中に虫がいるせいだからカエルを飲めば治ると言います。ととさんは言われたとおり、カエルをぺろりと飲み込みますが……。

ユーモラスで生き生きとした絵と、ありえないものを次々に飲み込んでいく展開に子どもは大喜び。次はどうなるのかとどんどん期待を膨らませます。結末に鬼が登場する節分の時期にぴったりの昔話です。

『かさどろぼう』　シビル・ウェッタシンハ作・絵　猪熊葉子訳

徳間書店　1400円



まだ傘がない村に住むキリ・ママおじさんは、生まれて初めて町へ出かけ、そこで傘を見かけました。キリ・ママおじさんは喜んで傘を買って帰りますが、一休みしているうちに傘がなくなってしまいます。何度傘を買っても、帰る途中で盗まれてしまうのです。キリ・ママおじさんは泥棒を捕まえるため、あることを思いつきます……。

スリランカが舞台のゆかいなお話です。くっきりとした鮮やかな絵は異国情緒に溢れ、色とりどりの民族衣装やカラフルな傘の模様に引きつけられます。最後にわかる泥棒の正体に子どもたちは驚き、喜ぶことでしょう。

『ずいとんさん』　日野十成再話　斎藤隆夫絵

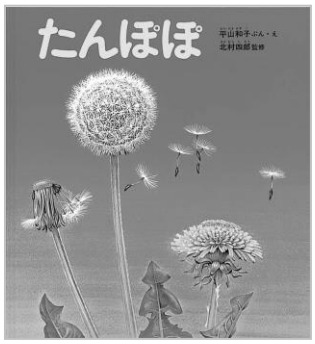
福音館書店　900円

一人で留守番をしていたお寺の小僧ずいとんは、キツネがいたずらしていることに気づいて懲らしめようとします。しかし、キツネは本堂の中へ逃げ込んでしまいました。ずいとんがキツネを追いかけて本堂へ飛び込むと、なんとご本尊が二つに増えています。キツネが化けたのです。二つのご本尊はそっくりで、見分けがつきません。ずいとんはどちらがキツネか見破るため、頭を使います。

とんちが利いた楽しい日本の昔話です。

『たんぽぽ』　平山和子ぶん・え　北村四郎監修

福音館書店　900円



野原や公園、道端でも見ることができるタンポポは、子どもにとって身近な植物です。この絵本は、春になって花開いたタンポポが、綿毛になって飛んでいくまでの様子を描いています。おひさまの光に合わせて花が開いたり閉じたりすることや、花の部分はたくさんの小さな花が集まってできていることなど、あまり知られていないタンポポの生態が分かります。写実的な絵も魅力があり、見開き２ページにわたって描かれる実物大の根は圧巻です。石の間をぬって長い根を伸ばす様子からは、タンポポのたくましさが伝わってきます。

『とべ！ちいさいプロペラき』　小風さち作　山本忠敬絵

福音館書店　900円

新しい小さなプロペラ機は、初めて空へ飛び立つ日を待っていました。しかし、大きなジェット機の姿に圧倒され、自信を無くしてしまいます。プロペラ機は、ジェット機に「げんきを　おだし、プロペラくん。ひろい　そらでは、ぼくらの　おおきさのことなど　わすれてしまうよ」と励まされ、翌日、力いっぱい大空へ飛び立ちます。

小さなプロペラ機が成長への第一歩を踏み出す緊張感と、大空を飛ぶ素晴らしさが伝わります。子どもは小さなプロペラ機と自分を重ね、プロペラ機になりきってお話を聞くでしょう。

『バルバルさん』　乾栄里子文　西村敏雄絵

福音館書店　900円

ある日、床屋のバルバルさんのお店にライオンやワニ、ヒツジなど、動物のお客さんが次々とやってきました。始めはおっかなびっくり切っていたバルバルさんでしたが、だんだんゆかいになっていきます。仕事を終え、動物たちがお店にやってきた理由に気づいたバルバルさんは……。

バルバルさんに散髪してもらい、すっかり姿が変わる動物たちの様子が人気の絵本です。シャンプーやカットをする時の床屋ならではの擬音も楽しく、一緒に声に出して読みたくなります。ユーモアのある結末で最後のページまで楽しめる工夫がされています。

『ぼくもおにいちゃんになりたいな』　リンドグレーン文　ヴィークランド絵

石井登志子訳　徳間書店　1400円

ペーテルに妹ができました。初めは可愛いと思っていたペーテルでしたが、お母さんたちが妹のレーナばかり可愛がるように思えて、思わずレーナをぶってしまいます。お母さんに叱られますが、叱られてもお母さんがそばに来てくれるだけで嬉しくて、その後もいろいろといたずらをします。それでもやはり悲しくてしくしく泣いていると、お母さんが抱っこをしてくれて……。

弟妹ができた時の子どもの嬉しさや寂しさに寄り添った作品です。成長したペーテルとレーナを描いた続編**『わたしもがっこうにいきたいな』**も一緒にどうぞ。

『まゆとおに－やまんばのむすめまゆのおはなし－』富安陽子文　降矢なな絵

福音館書店　900円

やまんばの娘のまゆは、北のお山のてっぺんにお母さんと住んでいます。ある日まゆは雑木林で、鬼に出会います。うちに遊びに来ないかと誘われて元気に鬼について行くまゆでしたが、鬼はまゆを鍋で煮て食べてしまおうと思っていました。ところが、まゆはたきぎ集めを頼まれると太い松の木をひっこぬきます。火を囲む石ころを集めてくれと頼まれると岩屋の壁をけっとばして崩します。力持ちのまゆに、鬼はびっくり。そして鍋の湯が沸くとまゆは…。

小さいのにパワフルなまゆの活躍を見て、子どもはとても喜びます。シリーズがあります。

読み物

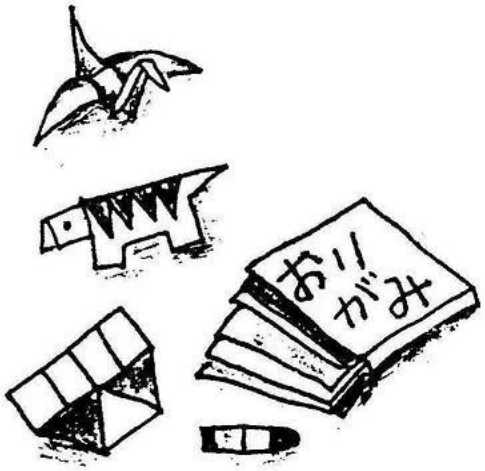
長めのお話は、まだお子さんには無理と思う方もいらっしゃるかもしれません。ところがどうして、この時期のお子さんは、耳から入ってくる言葉からしっかりお話を理解し、楽しむことができるのです。ひとりで読めるようになるのはもう少し大きくなってからですが、子どもたちが主人公に同化できるのは、この時期しかないと言っても過言ではないのです。ですから、この時期に本格的物語の第一歩となるようなものを是非読んであげてください。長いお話でしたら毎晩１章ずつ読み進み、親も子も続きを心待ちにするのもこの上なく楽しいものです。

『ミリー・モリー・マンデーのおはなし』　ジョイス・Ｌ・ブリスリー作

上條由美子やく　菊池恭子え　福音館書店　1400円

あるところに、短い髪、短い足に、短い服を着た女の子がいました。名前はちっとも短くないので、「ミリー・モリー・マンデー」と縮めて呼ばれていました。ミリー・モリー・マンデーは、牧場で友達とティー・パーティーをしたり、大人の代わりにお店番をして布やキャンディーを売ったりと、いつも楽しく暮らしています。

子どもたちが明るく元気に過ごす様子を、愛情深くユーモアたっぷりに描いた作品です。ほのぼのとした１２のお話が入っています。姉妹作に**『ミリー・モリー・マンデーとともだち』**があります。



参　考　資　料

『絵本が目をさますとき』　　長谷川摂子著　福音館書店　1500円

長年子どもたちと絵本を読みつづけてきた著者が、若い母親“Ｋ子ちゃん”からの「どんな絵本から始めたら」「どんな絵本が良い絵本か」といった質問に手紙で答えます。月刊『母の友』の連載をまとめた本書は、“Ｋ子ちゃん”からの疑問に対して、具体的に絵本を紹介した絵本案内でもあり、ブックスタートの時期の読み聞かせをどのようにしたらいいのかという疑問に応える道しるべでもあります。

あかちゃんとの絵本の楽しみ方のこつについて、あかちゃんの笑顔に出会う喜びだけを求めて絵本を手に取ることが肝心であると語っています。著者の絵本への深い理解は、絵本と共に子どもと過ごしてきた経験に裏打ちされており、どのような絵本が子どもの心をとらえるのかを生き生きと伝えてくれます。

『子どもと本』　　松岡享子著　岩波書店　860円

創作や翻訳で日本の児童書界の第一線を走り続ける著者が「昔話のもっている魔法の力」「本を選ぶことの大切さとむつかしさ」など５つのテーマに沿って語る、子どもと本を結ぶためのヒントが詰め込まれた本です。子どもが本を読まない・楽しまないなどの悩みに、実例を挙げてわかりやすく答えています。様々な困難を抱える今日において、著者が子どもや本の本来持つ力を全面的に信頼していることが伝わる１冊です。読者の心に寄り添って肯定し語りかける著者の言葉は、子育てや読書の現場にいる者を温かく励ましてくれます。

登録番号 （刊行物番号）
2021-115

このほんよんで！　第２版　追録版

令和３年10月１日　　第２版追録版　発行

編集・発行　調布市立図書館
〒182-0026　東京都調布市小島町2-33-1
℡042-441-6181
印　　刷　庁内印刷

落丁・乱丁はお取替えいたします。